

生涯学習・社会教育関係職員研修講座(市町村を会場地とした研修)

令和8年9月25日(金)14:00~16:00 八戸市福祉公民館 受講者21名

1 内容

【テーマ】「次代の地域を担う若者の育成」

【講師】大正大学 地域創生学部 教授

東京大学 名誉教授

まきの あつし
牧野 篤 氏



【経歴】

大学院博士課程修了後、1992年から名古屋大学大学院教育学研究科・教育学部助教授、2008年からは東京大学大学院教育学研究科・教育学部教授に就任し、2025年3月に退職。現在は大正大学創生学部教授を務める。また、中央教育審議会生涯学習分科会委員、第4期教育振興基本計画特別部会委員等を歴任し、各地の自治体と社会教育についての共同調査やまちづくり事業などを展開している。

【講義要旨】

- 「ふるさと」とは、歴史・文化・偉人・物産・風土などといわれます。しかし、それらを教え込めば「ふるさと」になるわけではありません。では、その前提は何なのか。これを問うことは私たち自身の社会での在り方を問い直すことです。
- 子どもにとっての「ふるさと」を考えることは、「学び」や「公共」の意義を見直す契機となり、社会教育の役割や地域と学校の関係、さらには住民自治の本質を新たな視点で理解する機会をもたらします。
- 島根県益田市の事例では、多世代対話や地域参加活動を通じて、子どもの自己肯定感や社会参加意識が向上し、地域に戻りたい若者が増加しています。また、地域行事や委員会運営を通じて連帯感や失敗への耐性も育まれています。
- 少子高齢人口減少社会から人生100年社会へと変わる中で、高齢者対応から子どもたちを主役に据えた持続可能な社会づくりが求められています。
- 社会教育は、地域コミュニティを基盤として人と人との「かかわり」や「つながり」の土壌を耕し、人々が他者とつながりながら幸せを感じ、生涯にわたり学び続ける社会を支えます。これにより、社会の持続可能性とウェルビーイングが高まり、信頼に満ちた社会と子どもたちの「ふるさと」が築かれます。

2 受講者の感想

- ・「つながり」「かかわり」の土壌を耕すことが社会教育の重要な役割だと痛感しました。それに加えて、寄り添う姿勢も不可欠だと感じました。
- ・小・中・高そして大人と世代を超えてつながりを育むカタリ場が、子どもたちに地域の魅力を伝え、帰ることのできる「ふるさと」として根付いている点は非常に素晴らしいと感じました。
- ・社会教育の役割が広がりを見せており、それに伴いより専門的な人材の力が一層求められていると感じました。